

## 大学での学び方を学ぶ「図書館入試」の試み

### 目的・趣旨 |

「図書館入試」とは、お茶の水女子大学（以下、本学）が2016年度入試（2017年度入学）から実施する、新しいAO入試「新フンボルト入試」の一部分です。全体像は、一次選考を兼ねる文理共通のプレゼミナールと、二次選考（文系「図書館入試」、理系「実験室入試」）の二段構えとなっています。

中央教育審議会でも審議されている入試改革を先取りしたもので、文部科学省の平成26年度大学教育再生加速プログラム（Ⅰ「アクティブラーニング」、Ⅱ「学修成果の可視化」、Ⅲ「入試改革」「高大接続」）のうち、「入試改革」として採択されました。

知識の多寡を問う1点を争う入試ではなく、「課題を探求・発見し、「必要な資料やデータを活用」し、「オリジナルな解を導き出す」力を測定することを目的とした取り組みです。入試としての公正性・公平性・厳格性を担保するのはもちろんですが、合否だけに囚われるのではなく、参加者（受験生など）に「大学での学び方」を学んでもらう機会と位置づけ、高大接続の趣旨も含まれています。

### 実施内容 |

本学が2015年8月に「新フンボルト入試」の体験版として実施した、プレゼミナールにおける「図書館情報検索演習」について紹介します（「図書館入試」の模擬体験ですが、実際の入試方法ではありません）。

「図書館情報検索演習」は、「課題の提示」「情報探索レクチャー（図1）」「レポート作成（情報探索→執筆）（図2,3）」「グループディスカッション（図4）」という4つのプロセスで実施しました。このうち、図書館スタッフが担当したのは、「情報探索レクチャー」と「レポート作成」のサポートです。関係部署（入試推進室、AO入試室、入試課、および情報基盤センター）と連携し、方針や実施内容、役

割分担を検討しました。共通理解の一助として、国立大学図書館協会が2015年6月に公表した「高等教育のための情報リテラシー基準」も活用しました。

「図書館入試」は、「本学図書館を自由に使ってレポート作成、発表」を行なうことが重要なコンセプトの一つとなっています。これを実現するため、①コンテンツは、ネットワーク上の情報環境を含め、本学の学部学生と同じ条件で使えること、②人的なサポート体制を整えること、③場所は、図書館のラーニング commons のパソコンや、グループディスカッションを行なうキャリアカフェを含め、図書館をフル活用できること、の3つを方針としました。

### 実施結果 |

午前・午後に各1回実施し、88名が参加しました。参加者のアンケート（回収数：81名）のうち、特に図書館に関連が深い項目の結果は以下のとおりです（※各項目の合計が100%にならないのは、無回答分です）。

「情報探索レクチャー」の理解度は、「とても分かりやすかった」が44%、「分かりやすかった」が29%、「少し難しかった」が11%、「難しかった」が4%でした。有益度は「とても有益だった」が72%、「有益だった」が22%、「知っていることが多かった」が2%、「ほとんど知っていることだった」が0%でした。「レポート作成の際のTA・図書館スタッフの支援や助言」については、「有益で助かった」が83%、「少し役に立った」が12%、「あまり有益でなかった」と「有益でなかった」は0%でした。これらの結果から、参加者の満足度が高かったことが窺われます。

「レポートのための材料として参照したもの」は、「図書館の蔵書+Webサイト」が最も多く、ついで「図書館の蔵書（紙媒体）のみ」でした。学びの場で実際に使われるコンテンツの傾向を垣間見ることができました。

「図書館入試」のアイデアが生まれた背景には、本学図書館が、①2007年に国内で最も早くラーニングcommonsを設置し、学内の学習支援部署とのネットワークを築きつつ学びの場を提供してきたこと。②情報リテラシー教育に積極的に関与し、初年次教育の必修授業やクラス単位のオーダーメイド講習会を実施してきたこと。③図書館内で行う学習サポートとして、従来のICTリテラシー中心のLA(Learning Adviser)を、アカデミックスキルズ全般の支援を担うLALA(Library Academic Learning Adviser)にリニューアルしたことなどがありました。

「図書館入試」の実践は、大学の入試改革、ひいては教育改革に、図書館が寄与できる可能性を示すことができたという意義があると考えられます。

## 今後の展開・課題 |

今後は、「図書館入試」を含む「新フンボルト入試」の本番の実施に向けて、①コンテンツ、②人的サポート、③空間機能といった環境の整備をさらに進めることが課題です。大学は今、入試改革・教育改革を始めとした大きな変革期にあります。「図書館入試」をきっかけとして、大学図書館が大学のミッションの実現にいかに関与することができるのか、さらに検討・実践を重ねて行く予定です。

## 参考文献・URL |

- <http://www.ocha.ac.jp/event/20150713.html>
- <http://ochadailisa.blog32.fc2.com/blog-entry-1037.html>
- <http://current.ndl.go.jp/e1717>
- [http://www.janu.jp/report/files/janu\\_vol37.pdf](http://www.janu.jp/report/files/janu_vol37.pdf)
- <http://kyoiku.yomiuri.co.jp/torikumi/jitsuryoku/iken/contents/post-417.php>

## 連絡先 |

お茶の水女子大学図書・情報課  
〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-2  
TEL: 03-5978-5833



図1 情報探索レクチャー



図2 レポート作成 (情報探索)



図3 レポート作成 (執筆)



図4 グループディスカッション